

～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名 ホルマリン固定パラフィン包埋 (FFPE)切片を用いた血管壁免疫グロブリン (IgA)沈着の検出法の確立』

研究機関名 東邦大学医療センター大橋病院

研究責任者 病理診断科 職位・氏名 准教授・大原関利章

【研究の目的】

東邦大学医療センター大橋病院病理診断科では、IgA 血管炎の患者様から採取された皮膚生検検体のホルマリン固定パラフィン包埋 (FFPE)切片に対する蛍光抗体法が血管壁免疫グロブリン (IgA)の検出に有用であるか否かを明らかにすることを目的として本研究を計画しました。この研究で得られる成果によって将来の IgA 血管炎の患者様の生検部位を減らすことができる可能性があり、生検に伴う患者様の身体的・精神的負担の軽減化につながります。

【研究対象および方法】

この研究は、東邦大学医療センター大橋病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。対象者:2018年1月～2022年3月までに東邦大学医療センター大橋病院皮膚科において、IgA 血管炎の診断で診療を受けた方、約 40 名を対象とします。また、染色が適正に実施されたことを確認するため、腎臓内科において IgA 腎症の診断で腎生検を受け IgA 陽性が確認されている方 (5 名程度)と皮膚科において非 IgA 血管炎で皮膚生検を受け IgA 陰性が確認されている方 (5 名程度)も対象とします。

方法:当院病理部に保管されている皮膚生検検体の FFPE 切片に対して蛍光抗体直接法と蛍光抗体間接法を行い、血管壁における IgA の染色性を検討します。通常診療で行われている凍結切片を用いた蛍光抗体直接法による IgA の検出感度や染色強度と比較します。

【研究に用いられる試料・情報】

試料:皮膚生検検体のホルマリン固定パラフィンブロックから作製した組織切片

情報:年齢、性別、生検採取部位、皮疹出現から生検までの日数、凍結切片を用いた蛍光抗体間接法の結果と顕微鏡写真

【研究組織】

代表施設名:東邦大学医療センター大橋病院_研究代表医師:大原関利章 役職:准教授

【個人情報について】

研究に利用する情報は、患者様のお名前、住所など、個人を特定できる個人情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報を利用することはありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報等を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大橋病院 病理診断科

職位・氏名 准教授・大原関利章

電話 03-3468-1251 内線 3430